

2024年3月1日

報道関係各位

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
ディープインスティンクト株式会社

予防型アンチウイルス製品「Deep Instinct」の取り扱いソリューションを拡充
ストレージとアプリケーションへの脅威を予防し、システム内のウイルスの拡散防止を実現

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社(代表取締役社長:柘植 一郎、本社:東京都港区、略称:CTC)は、米 Deep Instinct 社の日本法人であるディープインスティンクト株式会社(カントリーマネージャー:並木 俊宗、本社:東京都港区)の予防型アンチウイルス製品「Deep Instinct(ディープインスティンクト)」のアプリケーションとストレージのそれぞれを対象とした 2 つのセキュリティソリューションを本日から提供します。AI を活用して未知の脅威を防ぐ次世代のアンチウイルスソフトで、アプリケーションおよびストレージに特化したソリューションです。3年間で15億円の売上を目指します。

年々、サイバー攻撃の手法は増え、巧妙化しています。Deep Instinct はディープラーニング(深層学習)を活用して、既知の脅威とともに将来発生しうるマルウェアやゼロデイ攻撃などの脅威を予測し、未然に侵入を防ぐサイバーセキュリティのソリューションです。CTC は、2022年から提供を開始しています。

今回、取り扱いを開始する Deep Instinct ソリューションは、アプリケーション向けの DPA(Deep Instinct Prevention for Applications)と NAS ストレージを対象とした DPS(Deep Instinct Prevention for Storage)の 2 つのソリューションです。

DPA は、API を通したマルウェアの判定を可能にするソリューションで、メールや Web アプリケーションを通したファイルの受け渡しにおいて、受け取ったファイルのスキャンを容易に実現し、安全な送受信を可能にします。また、DPS は、ユーザーが NAS ストレージにデータを保存する際に、全てのファイルのスキャンして、悪性のデータが含まれているかどうかを判断するものです。

ディープラーニングを活用し、攻撃の予測モデルを作成しておくことで、20 ミリ秒以下のファイルのスキャンを可能にするため、システム処理に大きな影響なくセキュリティ対策が実現できます。パターンファイルの頻繁な更新も不要で、年数回のアップデートで未知の脅威に対応できるため、システム運用担当者の負担軽減にもつながります。

CTC は、2022年の取り扱いの開始以降、既に金融や情報通信などの企業に Deep Instinct を提供しており、これまでに培った経験とノウハウをベースに、DPA と DPS の導入についても、お客様環境への適合性の検証やシステム設計・構築、コンサルティング、24時間365日の保守・運用サービスを提供していきます。

■Deep Instinct 社について

Deep Instinct は、世界初かつ唯一サイバーセキュリティの目的のために構築されたディープラーニング フレームワークを用いて、ランサムウェアやその他のマルウェアを阻止するために、予防を第一に考えたアプローチを取っています。既知の脅威、未知の脅威、ゼロデイ脅威を 20 ミリ秒未満で予測し、感染を防止します。その速さはランサムウェアの暗号化速度の 750 倍に相当します。Deep Instinct は、99%以上の精度で未知の脅威から防御しながら、0.1%未満という誤検知率を実現しています。Deep Instinct Prevention Platform は、既存のセキュリティソリューションを拡張・強化し、ハイブリッド環境における脅威に対する完全で多層的な保護を提供します。

- ※ 記載されている商品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。
- ※ 掲載されている情報は、発表日現在の情報です。最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。

以上

<報道機関からのお問い合わせ先>
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
広報部

E-mail: press@ctc-g.co.jp